

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月21日実施)	総合評価(3月6日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程学習指導	・自立と社会参加をめざし、小中高一貫した、系統性のある教育課程の編成と、個別教育計画を活用した授業づくりを進める。	①「身につけた力」を軸に、系統性と教科等横断的な視点で、学習のねらいや内容を見える化する。 ②個別教育計画を活用する仕組みを構築する。(さらに進める)	①各学部で身につけたい力を系統的に具体化する。授業のねらいや内容と「身につけたい力」のつながりを明らかにする。 ②個別教育計画の中間評価日を設定し、目標の達成度等に応じて手立て(授業内容)等を修正する。引継ぎ方法を再検討する。	①「身につけたい力」を軸に、学習のねらいや内容を見える化し、系統性のある教育課程編成につなげることができたか。 ②活用の仕組みを構築し、個別教育計画を活用した授業づくりができたか。	①個別教育計画作成により身につけたい力を検討し、系統性の視点で共有した。学びの山場、力を身につける取組みを明確化した。 ②アセスメントシート等を活用し、目標設定の妥当性を検証した。身につけたい力の育成につながる授業づくりを意識した。校内研究により、身につけたい力を意識し、個別教育計画を活用した授業づくりにつながった。	①教科等年間計画に研究成果を反映させること、学部教育目標、身につけたい力の整理、系統性が課題。 ②身につけたい力をどう捉えて具体化していくと、授業に活かせるかという視点にポイントをおき、理解を進めたが、考えを深めるまでには至らなかったため、さらにその方法を整理していく。	①②小中高の系統制については、何を視点にしているのか、わかりやすく整理できたのではないかと、わかりやすい言葉、とらえ方で小中高の系統性がようやくできてきた。校内研究と実践が関連性を持って進められている。大事なことを理論づけて実践できたことは非常に良かった。学校教育目標を縦と横のつながり両面からとらえたことはとても良い取り組みである。個別教育計画を活用した授業づくりという観点では、アンケートから、保護者に成果が見えているが、生徒たち自身が成長を感じられるかが次のステップ。表すものがあれば良い。できる力は押し付けになるところも出てきてしまう。本人達はどうかが一番重要である。	①②校内研究と連携し、学校目標を系統性の観点から縦のつながりで、又身につけたい力を、教科横断的な視点から横のつながりで確認した。児童・生徒に身につけるべき力を個別教育計画に記し、目的を意識した授業作りにつながった。課題は、キャリア教育を意識した中での小中高の系統的な授業づくりと、個別教育計画に基づく個のスキルアップ、児童・生徒自身が学習成果を実感できる取組である。 <保護者アンケート結果> 個別教育計画を活用した授業作りがされかという問いに95.1%が良いという評価。	①②校内研究と連携し、各学部における育てたい児童・生徒像と、身につけたい力を考えていく。またキャリア教育を意識した系統的な授業計画、自立と社会参加をめざし、小中高系統性のある教育課程の見直しを行っていく。また個別教育計画に載せる身につけたい力を整理し、将来必要となるスキルを身につけられるようにしていく。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	・児童生徒一人ひとりの個性や人権を尊重し、教育的ニーズに応じた的確な支援・指導を全職員で組織的に実践する。	①担任と教育相談チーム等が連携し、多角的な視点で児童生徒の教育的ニーズを整理し、的確な支援・指導の実践につなげる。 ②児童生徒一人ひとりの個性を共有する。	①教育相談票の活用をさらに進める。担任と教育相談チーム等が児童生徒の教育的ニーズを話し合う仕組みをつくる。 ②個別教育計画の「得意・不得意、有効な支援方法・合理的配慮」を活用して、児童生徒の個性をわかりやすく表す。児童生徒の個性に合った支援・指導法を、担任を中心としたチームで考える。	①児童生徒の支援方法について、多角的な視点を持って指導の実践につなげることができたか。 ②児童生徒一人ひとりの個性を共有し、的確な支援・指導の実践ができたか。	①教育相談票活用の流れが定着し、ニーズや対応の整理につながった。必要に応じて専門職や学部の教員がケース会に参加し、異なる視点から支援について話し合えた。 ②学年会で児童・生徒の情報共有を行い、共通理解の下で指導にあたった。個別教育計画で設定した目標や手立てを、各教科担当が集約し、目標達成を意識した授業を実践することができた。	①今後も担任への周知を徹底し、多角的な視点から、教育的ニーズに応じた支援を継続していく。 ②各学部室での対応をグループでも共有することで、他の視点からの支援の手立てを考える機会となった。新たな共有の方法を模索していく。	①②教育相談票の活用は教育活動とケース会議等相まって良い取り組みであり継続してほしい。相談票の内容、活用、情報共有の中身について、相談票は机や椅子のサイズから、日々の支援、家庭内課題、関係機関との連携等、多岐に渡っている。クラスや学年、学部での共有が基本だが、相談担当と連携し組織的に問題に対して取り組んでいることはよく伝わってきた。延べ件数として実際に地域連携グループに上がった件数やどのような内容が多かったかデータを積み重ねて今後の手掛かりにしていけると良い。	①教育相談票を活用したケース会議、教員間の連携が定着してきているので、今後も教員間での情報共有を密にし、児童・生徒支援を組織的に行っていく。課題としては、相談チームに上がってくる相談件数や内容について、傾向を把握し、次の支援につなげていくことである。 ②個別教育計画に基づき、教員間で児童・生徒の実態把握と支援方法の検討を行うことができた。 <保護者アンケート結果> 児童・生徒個々のニーズを考慮した学習内容かという問いには95.6%が良いという評価。	①教育相談票を活用し、教員間での効率的で確実な情報共有をしっかりと行っていく。又、相談内容の可視化は、データを蓄積し見える化していくことで、傾向と今後の支援方針につなげていく。 ②個別教育計画を活用し、児童・生徒の実態把握と、支援方法の確認、教員間の共有を進めていく。

視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月21日実施)	総合評価(3月6日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援 ・将来、児童生徒が地域社会で豊かに生きる力を育むために、ライフステージに沿った積極的な進路指導・支援を行う。	①保護者と連携し、児童生徒に合った方法や様式で作成した「キャリア・パスポート」を通して、自己実現する力を育む。 ②進路学習教材の開発や共有をさらに進め、個々のニーズに合った進路指導・支援を実践する。	①児童生徒に合った「キャリア・パスポート」の様式や作成方法(写真の活用等)を調整する。また、本人の願いの言語化や、願い実現の視点による支援計画の作成を保護者と共に行う。 ②担任と進路チームが連携して開発を進める。教材や実践報告を学校全体で共有・活用できる仕組みをつくる。	①児童生徒に合った「キャリア・パスポート」を作成し、自己実現する力を育むことができたか。 ②進路学習教材の開発・共有・活用を進め、個々のニーズに合った進路指導・支援が実践できたか。	①保護者と連携し、児童・生徒の願いを汲み取り、理解しやすい書式でキャリア・パスポートを作成し、学部によっては学期や行事の節目に振り返りを行い、自分自身で達成状況を確認できる場合もあった。 ②teamsのフォルダに「つるみ進路教材ライブラリー」枠を作成し、引き続き進路学習教材の収集に務め、数を増やしている。	①活動の定着を図るとともに、保護者への提示も行い、理解を深めていく。 ②今後は掲示板のリンクを利用して、目に留まりやすく使いやすいライブラリーに仕立て、全体への周知と実践的な活用につなげていく。また、学部内で実践できた進路教材の共有・活用の例を基に、学校全体で共有・活用できるよう取り組みを進めていく。	①キャリア・パスポート実践のアンケート結果では「わからない・知らない」がR4は6割だったのがR5は18%に減ったのは評価できる。キャリア・パスポートでは、分教室の取り組みで自己肯定感につながると記載されているが、その通りである。小さな成功体験が伸びる力につながる。わかりやすい、記載しやすい、考えやすい工夫をし、わかりやすいキャリア・パスポートにつなげて欲しい。 ②PTAの進路委員、保護者視点での進路の学習が成果につながったのではないか。保護者には、進路に関して、またインクルやサポート校があるが、どこに行ったらいいかわからないという人が多い。	①キャリア・パスポートの書式は自由とし、児童・生徒の実態に合わせて、自己の活動を振り返ることができた。保護者との連絡、定着を図ることが課題。 ②保護者向け進路学習会の情報を教員間でも共有している。学部を問わず自立と社会参加、進路学習について、保護者への情報提供が必要となる。 <保護者アンケート結果> キャリア・パスポート、鶴見のキャリア教育、進路学習への評価は約75%が良いという評価。	①キャリア・パスポートは、今年度の実績を基に、次年度も継続し取り組んでいき、保護者へも理解を図っていく。 ②進路学習教材の活用では、学部内で実践できた進路教材の共有・活用の例を基に、学校全体で共有・活用できるよう取り組みを進めていく。また、学習を通して、将来必要な力の育成について保護者と情報共有を行っていく。
4	地域等との協働 ・共生社会の実現に向け、障害のある児童生徒の理解を進めるため、地域と連携した教育活動を推進する。	①教育活動の様子を発信し続けるとともに、地域貢献活動を立ち上げ、地域の理解促進を図る。 ②地域や校内の交流を推進し、相互理解を図る。	①多様な発信ツールを活用し、教育活動の様子を継続的に発信する。また、近隣の店舗等に依頼して、活動の幅を広げる。 ②交流のアイデアを校内で募り、実践をしていく。	①地域貢献の活動を広げることができたか。また、地域の中で活動をすることにより、児童生徒の理解を進めることができたか。 ②交流の機会を増やし、相互理解を図ることができたか。	①Xで学習や行事の様子を継続的に発信した。支援方法やグッズの紹介をする「つるみの支援」のタグを立ち上げた。高等部3年生は公園の花苗植えを行い緑化活動に貢献した。また地域の方に高等部木工班の作業学習授業準備をして頂いた。 ②地域貢献活動によるラグビー体験授業では、スポーツ選手との交流を通し、地域への児童・生徒理解促進を図り、また他学部の児童生徒との交流活動を行うことができた。また、地域の商店街での作業学習製品販売を通して、本校の生徒についての理解を促進した。	①コロナ禍が明け、地域との交流活動が活発になってきた。今後も地域への発信、地域との協働を進めていく。 ②ラグビー体験授業は1回のみで終わったので、今後も交流の機会を重ね相互理解につなげていきたい。今後は交流授業の対象を広げ、学部間交流の場として継続していく。地域の商店街での作業学習製品販売は、今後も継続していく。	①②地域の方が意見交換し活動していくのは、防災や安心安全な街づくりといった面でも良い。うまく、機械や便利なグッズを使いこなせるようにしていくと良い。警察や消防にも聞いていただき、コミュニケーションをとりながら確認しあえる場が多くあるとよい。学校内で木工の手伝いをする中で、そこでの授業のアイデアを事業所に持ち帰り活用することで、利用者が落ち着いてできている。災害時は非難後の生活をみんな予想し非難グッズをすぐ持ち出せる場所に置く等考えてほしい。	①地域への教育活動の発信は行っているが、アンケート結果からは、今後も課題となる。三ツ池公園の緑化活動や、大曲広場等の場所での活動も視野に入れていく。 ②地域との交流、校内他学年、他学部の交流活動が活発に行われた。今後も更に継続していく。 <保護者アンケート結果> 地域の理解啓発、地域との協働というところでは、良いという回答が約70%となっている。	①今後もXを活用し学習や行事の様子、またホームページを活用して「つるみの支援」の発信も継続的に行っていく。地域との関わりや連携が学習活動につながることで、保護者への理解促進につながっていくと考える。 ②次年度も地域との連携を進め、交流活動を行っていく。又校内交流も授業や行事を通して取り組み、その情報を保護者へも発信し理解を深めるよう努める。
5	学校管理学校運営 ・児童生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備と、危機管理体制の確立を図り、地域に信頼される学校づくりに取り組む。 ・教員のワークライフバランスの観点から、教員の働き方改革を推進する。	①教育環境整備や防災教育に地域と共に取り組む。 ②小さな削減や効率化をすぐに実行する。(目標50個)	①地域の防災訓練やイベントに参加し、学校からの積極的な発信を行なうと共に地域の方の意見を取り入れていく。 ②安全・安心などを抑えながら、実行できる仕組みを構築する。	①良好な教育環境の整備と、危機管理体制の確立のために、地域と協力することができたか。 ②小さな削減や効率化を50個実行できたか。	①定期的な防災訓練、引き取り訓練での課題を整理し、災害時の対応についてチーム内で共有した。安全点検を毎月行い、危険箇所は早期の修繕に努めた。7月には環境整備事業に地域の方と一緒に取り組み、分教室は岸根高校との合同防災訓練、また日本赤十字社主催救急法研修会に参加し、生徒一人ひとりが救急法を身につけることができた。 ②「ちりつも大作戦」と称して、小さな削減や効率化に取り組み、文書保管の方法や仕組みの改善、インターネットの活用などにより、32個実行できた。	①防災訓練、校内の施設点検等、今後も継続し、より安全な学校づくりを行う。また、保護者や地域へ情報発信し、災害時への備えとする。 ②前例踏襲ではなく、教育的効果と業務の効率化の両立を図っていく。今後も具体的な目標を立て、かつ小さなことから削減を積み重ね、働き方改革を大きく前に進めていく。	①防災訓練で自販機を使ってみる。実際に起きたときに使えなかった事例があった。皆が知っているようにマニュアルが必要である。来年度10月13日(日)地域防災訓練がある。地域の方々の訓練に参加して連携を作っていくと良い。校内のどこに何があるか、誰が見てもわかるマークのピクトグラムを活用してはどうか。防災については、避難場所を確保することが課題。福祉避難所は誰もが来て良いところではないと理解してもらっては難しい。防災に関する意識は高まっている。 ②働き方改革について、ちりつも大作戦は楽しみながら工夫できるところが良い。教員の仕事は増えている。あまり広げすぎないことも必要。全部やるのではなく、これは来年といった工夫もあるスクラップアンドビルドに取り組んで欲しい。	①防災訓練、校内の施設点検等を今後も継続して行い、安全な学校づくりを行う。防災、防犯等、緊急時の対応については、地域との連携が不可欠であり、いかに情報共有し、具体的に動いていくかが課題となる。 ②職員の働き方改革は、小さなところから着実に実行しているが、良いという評価は47.2%と低い。スクラップアンドビルドをいかに実行できるかが大きな課題である。	①防災、防犯訓練を今後も地域や近隣の学校との協力のもと行えるよう、また校内の訓練をより実効性のあるものにしていく。 ②職員の働き方改革では、現在の職員の業務内容を見直し、様々な削減を継続していく。また教育的効果と業務の効率化の両立を考え、職員に様々な勤務形態がある中で、無理なく行える教育の在り方、教育実践の形を、より具体的な目標と共に模索していく。

